

## 研究協力のお願い

昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

肉芽腫性皮膚疾患における単球・マクロファージ・樹状細胞の免疫組織学的検討

### 1. 研究の対象および研究対象期間

対象：2006年～2015年3月までに皮膚生検・病理検査により以下の診断をうけられた方

- ・サルコイドーシス
- ・環状肉芽腫
- ・顔面播種状粟粒性狼瘡
- ・酒さ性ざ瘡

### 2. 研究目的・方法

肉芽腫性疾患では病変部に多核巨細胞が認められ、これらは末梢血中の単球や組織中のマクロファージに由来する類上皮細胞が融合した細胞と考えられています。末梢血単球は細胞表面マーカーにより古典型(CD14<sup>++</sup>, CD16<sup>-</sup>)が大多数を占め、その他少数が中間型(CD14<sup>++</sup>, CD16<sup>+</sup>)、非古典型(CD14<sup>+</sup>, CD16<sup>++</sup>)に分類されます。サルコイドーシスでは末梢血中に中間型/非古典型が増加することが知られていますが、生検組織における分布を検討した報告はありません。サルコイドーシスを含む非感染性肉芽腫性疾患(環状肉芽腫、顔面播種性粟粒性狼瘡)において皮膚に浸潤している組織球系細胞がどのサブタイプによるかを免疫組織学的に検討し疾患特異性の有無を確認し、病態を解明したいと考えます。

#### 研究期間

2015年5月1日～2020年7月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

1に記載した対象疾患の患者さんから生検検査の時に採取した皮膚の組織は保存されており、そこから切片を切り出して免疫染色に使用します。あらたな受診や検査は必要ありません。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院（医学部皮膚科講座） 氏名：末木 博彦

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8557

研究責任者：

所属：昭和大学病院（医学部皮膚科講座）研究責任者：末木 博彦